

やいだの詩あしらの詩



2021年版

一般社団法人日本作詩家協会年刊詩謡集

# さよなら詩あしたの詩



一般社団法人日本作詩家協会年刊詩謡集  
2021年版



## 序

会長 石 原 信 一

街が少しづつ活気を取り戻してきたように思います。コロナ禍で自粛生活を余儀なくされた私たち、感染者の減少で様々な規制から解き放たれた喜びを感じています。

この詩謡集に参加してくださった日本作詩家協会会員のみなさんの詩は、自粛という冬を乗り越え、前を向こうとする春の兆しのように私には見えます。きらきらと輝いて見えるのです。どんな悲哀や苦しみの詩も、発表できることが生きる力であり、素晴らしいのです。

私たち会員は、なぜ集っているのか。その意味をもう一度問い合わせています。定款にある、この協会の目的には「作詩の普及」とはつきり記されています。「もつて我が国音楽文化の發展に寄与することを目的とする」と書いてあります。

会員一人一人の作詩が、この国の音楽文化なのです。おろそかにページをめくることなどできません。みんながどんな想いで出品されたか、それを受け止めて、この詩謡集をこらんください。



序 ..... 会長 石原信一 ..... 一

危険がアブナイ!	アーヴアン沢井	三三
縁歌だね	相原利夫	三三
こんな時代を駆け抜けて	蒼木圭介	三三
長崎かもめ	青木圭介	三三
人生、行楽日和	赤坂佳津子	一六
ぼうやが摘んだ白い花	明石真帆	一七
風の待合室	秋篠さと	一八
花びら涙	麻こよみ	一九
温泉天国	浅倉美智子	二〇
夫婦喧嘩の詩	アソムラタカオ	二一
鬼剣舞	安倍暁	二二
愛の枝葉	あまりあい	二三
(無題)	荒木とよひさ	二四
はまうり	E - TRIP	二五
夫婦日和	井川喜三彦	二六
道ひとすじ	生駒かつゆき	二七
初恋	石原信一	二八
心に太陽	市川武志	二九
令和の居酒屋	出原敏光	三〇
加賀のあやとり橋	城えり	三一
落葉の峠	藤原彰二	三二
追加注文	伊藤千賀子	三三
生命の海	伊藤久子	三四
黄色い悪魔	伊藤耕作	三五
息子のアルバイト	井上裕允	三六
楽天知命——竜馬の如く	井上ゆうき	三七
夕凪の女	田公美彦	三八

私はあなたのチャップリン	一郎	三九
硝子の日々	内	内
妻 よ	山 堀	原
白いアルバム	羽蝶天	ミ
今日からオヤジ	海 野	工
夜間飛行	円 上	四二
傷あざみ	川 翁	四一
雪女伝説	石 大	四二
ひとり旅	沢 大	四三
（原作・浅香光代「ひとり旅」幕居より）	山 山	四五
桜恋して	岡 敬	四四
未練なこころ	山 美	四四
別離のバラード	山 駿	四六
陽だまり	山 邦	四六
途中下車	山 行	四七
風になりたい	山 元	四七
野の花	岡 行	四八
令和残酷ものがたり	大 美	四八
終活	大 鄉	四九
聖なる酔っぱらいの物語	大 司	五〇
おわら恋唄 風の盆	大 子	五〇
PICTURE (絵) (絵画)	大 一	五一
秋月夜	岡 清	五二
ふたりの小部屋	井 正	五二
もう迷わない	井 慶	五三
天六酒情け	井 幸	五四
父さんみたいに	河 観	五四
お嬢板前めしあがれ	河 見	五四
夫婦人生かくれんぼ	河 伸	五四
夫婦パン	川 伸	五四
一服のお茶	川 伸	五四
菊川	河 見	五五
河村	井 見	五五
西て	井 見	五五
る	井 見	五五
六八	六五	五六
六七	六四	五六
六六	六三	五六
六五	六二	五六
六四	六一	五六
六三	六〇	五六
六二	五九	五六
六一	五八	五六
六〇	五七	五六
五九	五六	五六
五八	五四	五四
五七	五四	五四
五四	五四	五四

渡る世間	風の舞	貴	岸	たかし	六九
木崎湖畔の宿	木	木	原	のぶや	七〇
セピア色の初恋	京	京	田	志	七一
照れ隠し	北	北	村	昌弘	七二
道	木	木	村	直之	七三
貴船恋唄	京	京	賢	司	七四
（雪の章）	霧	霧	光	恵	七五
あんただけ	草	草	村	七	七六
母ちゃんへ	久	久	賢	七	七七
お若いの	國	國	直	七	七八
恋は一万キロ	國	國	之	七	七九
奇橋 祖谷のかずら橋 「ご当地ソング」	枝	枝	介	七	八〇
よさこい情話	波	波	好	七	八一
愛のやすらぎ	野	野	京	七	八二
港恋がたり	栗	栗	星	七	八三
オールドジャズ	黑	黑	浩	八	八四
貴方はピエロ	澤	澤	市	八	八五
宛先の書けない葉書	川	川	志	八	八六
冬のエトランゼ	木	木	介	八	八七
兄貴の還りを待つてたに	木	木	人	八	八八
流れ 雲	こじま	夏	涼	八	八九
千日まいり	こはま	夏	人	八	九〇
木曽三川織部 蓬の里	小嶋	夏	戀	八	九一
夫婦箸	小	高志	人	九	九二
親父の口笛	森	かずみ	人	九	九三
大楠の花	宮	かずえ	人	九	九四
餌さ。	佐藤	高志	人	九	九五
浜女房節	佐藤	かずえ	人	九	九六
まぐろ海峡津軽	佐藤	かずえ	人	九	九七
画狂伝	佐藤	かずえ	人	九	九八



雨	音	田	中	いぶき	一二九
なみだ橋				たにはら	伸
いちょう通り					一三〇
男舞い		多	野		
平家の落人		千	秋	玉	利
雨の桜坂		千	草	三	紀
難波橋		津	田	雅	道
初恋・盛岡		つ	つじ	森	かし
ひと葉舟		粒	良	せい	子
恋ぼむら		寺	島	幸	生
冬の琵琶湖	高木浜	土	肥	薰	一三九
初恋物語		桃	仙	橋	佳
まちびと花結び		戸	川	智砂子	一四一
ニヤン子とワン太クン		永	井	ひろし	一四二
泣くなわらしこ		奈	井	だ	じよう
あゝサムライ		永	田	彰	臣
咲き誇れ		中	村	聖	子
また海の見える街		名	取	月	一四六
恋ごころ		沙	彰	紀	一四七
真っ白な	キヤンペス	浪	田	月	一四八
男の生き甲斐		花	聖	一	一四九
坂出の海		乃	安	一	一五〇
背中に涙が		西	伸	一	一五一
面影にひかれて		井	安	一	一五二
母の顔		陽	伸	一	一五三
妻の歌		南	子	一	一五四
おひとりさん		西	子	一	一五五
蟋蟀		丹	学	一	一五六
京の女はかわいいえ		羽	敏彦	一	一五七
半夏生		ミ	みち子	一	一五八
萩台	NO	モ	芳	一	一五六
峰永倅	M	OSS	一	一五六	

ありむけば	羽澤	文子	一五九
愛和の歌	初	本	信之介
秋のおわりの独り言	橋	本	一六〇
啄木の女 <small>ゝ</small> 小奴哀歌	華	本	真寿美
ふたりの夢 <small>ごよみ</small>	花	季	みづき
独居の詩	季	あや	一六一
雨 <small>・</small> 金沢	田	龍郎	一六二
Love, Nokturne	濱	茂	一六三
かあちゃんの手毬唄	林	代	一六四
春夏秋冬	林	伸	一六五
面影泪	原	文彦	一六六
酔い <small>ゝ</small> ころ	平	ヒロ・ユイ	一六七
金沢恋しい暗がり坂は	井	歩果	一六八
いいじやないの	瀬	ゆたか	一六九
感有り	廣	藤	一七〇
北海盆太鼓	不	藤	二
一杯のワイン	平	文	美風
Lily of the valley ～谷間のゆり～	誠	月	一七一
ノーベル・マザー賞	本	月	一七二
春の語り草	倉	雅則	一七三
儚い夢	堀	まさる	一七四
アイドルスマホちゃん	星	野	一七五
洒しのび	梵	哲	一七六
人間らしく —芥川龍之介「杜子春」より	天	寛	一七七
言葉	城	丸	一七八
えんぴつ人生	氣	一七九	一七八
天使の微笑み	たかし	一八〇	一七八
忍ぶ愛	流	一八一	一八一
露地うら酒場	純	一八二	一八二
うたかたの雨	一八三	一八三	一八三
真鍋	五郎	一八四	一八四
松	井	眞佐子	一八五
松	岡	徳峰	一八六
松	本	攝子	一八七
松	本	加津美	一八八

わたし飛べない海ほたる	丸山	八留男	一八九
面影の花	まんだ	あつこ	一九〇
郷愁	三浦	節子	一九一
妻恋鴉	三木	政和	一九二
鰯一本釣り	みさき	まさる	一九三
雪の夜	三里	こうじ	一九四
あした酒	水木	千代喜	一九五
僕がずっと守るから	水木	美春	一九六
旅ひとり	水木	れいじ	一九七
嫁ぐひとに	美手	けんじ	一九八
夫婦しぐれ	みね	隆	一九九
はまなす	みね	ゆきと	一〇〇
栄光への道	宮内	たけし	一〇一
土佐のはちきん	美山	愛	一〇二
道をひらいて	武笠	和夫	一〇三
鳴門海峡	めぐみ	あきら	一〇四
夜空の星をもう一度	茂木	けんじ	一〇五
京都・花街先斗町	森本	アキラ	一〇六
九月生まれの彼女	矢坂秀司	圭一	一〇七
愛鍵	代	一	一〇八
アロハ・マハロ	山甲斐晶子	圭一	一〇九
コップ酒	田代功	一	一〇九
越後あがの川	矢坂圭一	一	一〇九
杖	早苗	一	一〇九
別離の波止場	輝一	一	一〇九
自慢のあなた	彩政	一	一〇九
あれから一年	城城	一	一〇九
返信のないメール	れい子	一	一〇九
佐渡航路	ねね	一	一〇九
歌こそわが命	鶴	一二七	一一六

追憶の女	ゆき	ちかげ	一二九
一人 静	ゆくさ	みやび	一三〇
ほんま・あほやねん	夢	ユメ子	一一一
夜の舟	由 良	ゆりこ	一一二
わかれ宿	由 梨	恵 子	一一三
桜 東風	ゆ り	花 笑	一二四
名古屋ブルース	陽 呼	こじま	一二五
恋 路	吉 井	省 一	一二六
おとこ酒	吉 田	江 二	一二七
播州覇氣	吉 津	静 二	一二八
ジユリーと呼ばれて 50年	芳 佳	風 二	一二九
秋の夕暮れ	野 和	久 三	一三〇
くたばれ人生	幸 螢	士 一	一三一
クミコに惚れた	免 久	兔 一	一三二

編集後記

たきの  
えいじ

題字 星野哲郎